

北京市の空が真っ白に！！

北京事務所

朝、目が覚めても外が薄暗く、起きる時間を間違えたかのような日々が続いています。その原因は大気汚染です。北京の大気汚染が尋常ではありません。

大気中の浮遊粒子状物質、粒径 2.5 マイクロメートル以下の粒子、いわゆる一般的に PM2.5 と言われている浮遊上粒子物質の濃度が非常に高い日々が続いています。北京市では、大気汚染指数を作成し、市民向けに大気汚染状況を公表しています。大気汚染指数（API）は主要な大気汚染物質の観測データを一定の基準で総合換算した後の相対数で、汚染状況を 6 段階に分類しています。

大気汚染指数 (API)	等級	種別	健康に対する影響等	
0-50	1 級	優秀	空気は基本的に汚染されておらず、人体の健康に被害は与えない。	屋外で活動し、新鮮な空気を取り入れることができる。
51-100	2 級	良好	受け入れられるレベルで、汚染物に特に敏感なグループを除いて人体の健康に被害は与えない。	汚染物に特に過敏なグループ以外の人は正常に屋外活動を実施することができる。
101-150	3 級	軽度の汚染	高齢者や子ども、呼吸器疾患を持つ人、心臓病患者などの汚染物に比較的敏感なグループは注意が必要。	高齢者や子ども、呼吸器疾患を持つ人、心臓病患者などは、激しい屋外活動を控えるほうが良い。健康なグループには大きな影響はない。
151-200	4 級	中程度の汚染	健康な人にも被害があるレベルで、中でも敏感なグループ（呼吸器疾患や敏感な皮膚等）では顕著な影響が出る。	高齢者や子ども、呼吸器疾患を持つ人、心臓病患者などは、激しい屋外活動を控えるほうが良い。健康なグループは屋外活動を控えた方が良い。
201-300	5 級	重度の汚染	健康な人にも深刻な被害が生じる。	健康な人も屋外での活動を減少させる必要がある。特に高齢者は子ども、呼吸器疾患、心臓病患者などは可能な限り屋内に留まるべきである。
301 以上	6 級	深刻な汚染	全ての人の健康が深刻な被害を受ける。	全ての人は特別な必要がある人を除き、屋外に出るべきではない。

また、在中国アメリカ大使館や在中国日本大使館でも毎日大気汚染指数による汚染状況を HP に掲載し注意を呼び掛けています。また、下記アドレスにおいても、日々大気汚染指数を確認することができます。

（北京藍天天：<http://www.lantiantian.com/index.php/ja/home>）

中国当局の発表によれば、北京市内の大気汚染状況は、十数年間連続で改善されているが依然として深刻な状況が継続し、最近では大気の滞留しやすい自然状況も加わり、特に深刻な汚染が多発しているとのこと。今年に入り、1月13日の北京市空気質量モニタリングデータによると、大気汚染指数はすべての測定地で最大の 500 に達し、6 級の深刻な汚染状況となり、4 日間連続で濃霧（大気汚染）に包まれました。

北京市でこのような大気汚染が発生するのは、工場からの排煙もさることながら、北京周辺が山に囲まれ盆地となっており、空気が滞留しやすい地形であるのも要因の一つと考えられています。また、中国はエネルギー源の7割を石炭に依存していることから、このような大気汚染が発生するのだとも言われています。2009年の統計によると中国の石炭総生産量は15.5億トンで、一部が輸出されているほか、ほとんどが国内で消費されているのです。また、車の排気ガスも影響していることは間違いありません。北京市ではナンバーの下一桁を基準に、曜日によって市内中心地への乗り入れを規制するなどのナンバー規制を実施して対策を講じていますが、あまり効果がないようです。2010年の中国国内の自動車保有台数は7,802万台〔アメリカ(23,981万台)、日本(7,536万台)〕となっており、今後も更に自動車の保有台数は増加することが予測され、イタチごっこが続いています。



《大気汚染に包まれ前のビルが見えない北京の朝》

また、中国東方網は「中国の原油製品に含まれる硫黄分は欧州諸国のそれよりも15倍超で、中国の曇り空を作り出す要因となっている」と報じました。中国では、単に車が多いことだけが問題ではなく、原油に含まれる硫黄分の多さも問題であることを指摘しています。

北京市政府は、ぜんそくや肺がんなどを引き起こすとされる微粒子状物質「PM2.5」の大気中濃度が上昇する中、「北京市大気汚染防止条例」の策定を進めるとしています。また、今年中に高濃度汚染物質を排出する市内の企業などを閉鎖するなど、大気汚染対策を本格化する方針だが、効果があるかどうかは不透明のようです。



《一日使用したマスクの内側フィルターの比較：
汚染状況が6級だった1月12日(左)、4級だった
1月15日(右)》

中国は急速な経済発展を遂げています。しかし、かつてイギリスやアメリカ、日本などの国がたどってきたように、経済発展と同時に公害や環境問題に直面しており、しかも、120年にわたる日本の公害・環境問題の歴史をわずか2~30年で経験しようとしているのです。

ここ1ヶ月青空を拝んだことがありません。日本の青空が懐かしいです・・・。

(広瀬所長補佐 島根県松江市派遣)